

個人投資家向け説明会主な質疑応答 (2013年9、10月開催)

Q 円安の業績への影響を教えてください。

A 2013年度の業績予想の前提となる為替レートは、1ドル=90円です。現在の為替レートは97円程度であり、損益上、有利に推移しています。ただし、これまで円高対策として、海外からの部品調達比率を高めていたことなどもあり、業績への影響については、それほど大きなものではありません。

Q 企業年金の積み立て不足の取り扱い見直しの影響はありますか。

A 年金の未認識債務については、来年3月末にバランスシートに反映させて自己資本が減少することになります。しかしながら、自己資本比率の健全性は確保できると考えており、投資も実行できる状況にあります。

Q 株価が低迷していますが、株価を上げるための方策は考えていますか。

A 当社の株価については、過去の業績の低迷に加え、10年度、11年度と無配が続いたことが原因だと考えています。当社は12年度に人員削減も含めた構造改革を行い、現状の売上でも着実に利益を出せる体質に変えましたが、業績予想の確実な達成と安定的な配当の実現が重要と考えています。

Q 前回の中期経営計画「V2012」で設定した目標である売上高4兆円が、実績で3兆円と大幅に未達となった背景を教えてください。

A 「V2012」では、最終年度に、海外売上高を1兆円にすることを目標としていましたが、12年度実績が約4,800億円となり、5,000億円以上足りませんでした。この他にも、携帯電話事業で、シェアダウンもあり目標台数を獲得できなかったことや、自動車用電池向け電極事業が思ったように伸びなかったことがあげられます。M&Aも検討していましたが、実現できませんでした。

Q

「2015中期経営計画」は実現可能なのでしょうか。

A 海外事業については、前回の中期経営計画「V2012」では、海外の全ての地域で拡大しようと考えていましたが、今回の「2015中期経営計画」では、NECが既にセーフティやセキュリティで実績があり、力を発揮できるアジアに注力していきます。

また、12年度に構造改革による人員削減も実施し、売上成長による利益の拡大ではなく、売上高3兆円レベルでも営業利益で1,000億円以上あげることができる事業構造への転換をはかりました。「2015中期経営計画」では、最終年度である15年度の売上高目標が3兆2,000億、営業利益についても、12年度実績1,146億円に対し、15年度の目標を1,500億円としており、「V2012」の最終目標2,000億円には届かない水準です。今回の「2015中期経営計画」で掲げた目標は確実に達成していきたいと考えています。

Q

M&Aはどの領域で実施することがありえますか。

A 当社が注力している社会ソリューション事業、つまりパブリック事業、エンタープライズ事業、テレコムキャリア事業、スマートエネルギー事業など成長分野でかつ利益拡大を見込める分野、地域的には注力しているアジアなどの会社も想定しています。

Q

パブリック事業で、官公庁向けビジネスに取り組んでいるとのことですが、売上高7,350億円、営業利益が570億円と、営業利益率は8%にも満たない水準です。もっと利益をあげられるのではないですか。

A この分野は、これまでも比較的安定した利益を稼いでいます。主に民間企業向けであるエンタープライズ事業と比較すると高い利益率を確保していますが、更なる利益拡大に努めていきます。

Q

オリンピック関連銘柄に注目しています。幅広く事業を手掛けているNECをオリンピック銘柄と位置づけるのは難しいと思いますが、東京オリンピックに関連して、株価上昇・業績向上のきっかけとなるような案件が出てくるのでしょうか。

A

当社は社会ソリューション事業に注力する中で、通信・交通などでICTを活用した貢献ができると考えています。当社は、2014年に世界的なスポーツイベントが開催されるブラジルにおいて、そのメイン会場のひとつとなるスタジアムのICTシステムを提供した実績もあり、2020年のオリンピックに向けて貢献できることは多いと考えています。